

## 2015年10月 会社の雰囲気を1W<sup>721</sup>明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することになりました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/佐之

### 文化を変えれば、常識が変わる

9月上旬にベトナム ホーチミンにクリニック視察ツアーをユメオカで実施しました。ホーチミンのバイクの量は半端ありません。縦横無尽にバイクが走っており、道が混んでいる時は、歩道にもバイクが大量に乗り上げてきて、歩行者の合間を走っていく光景はごく普通です。慣れていない私としては、信号のない横断歩道を横切るのは、まさに命がけでした。現地に住む日本人に聞いたところ「狭い道でも路上駐車は当たり前で、その車以降、渋滞を巻き起こしていても周りの人は誰も気にしない」とのこと。日本なら「誰だ、こんな所に停めたのは、早く移動して」と怒りを露わに促されるでしょうが、そんなことは誰も言わないそうです。その背景を聞いていくと「他人には迷惑をかけて当然」、「お互い迷惑かけあうのだから、その都度協力しあいましょう」という文化が歴史的に根付いているようです。その前提で人間関係を築くのがベトナム社会だそうです。



滞在中何度となくその文化を実感しました。その一つに、40人の現地女性スタッフを抱える会計事務所の日本人所長さんと私が面談した時のことです。私が「若い女性中心の職場なら、出生率が高いベトナムでは、産休が頻繁に起こり、運営が大変ですよ」と聞くと「もちろん、産休を取る人は多いですが、4~6カ月でほぼ皆戻ってきますので、それほど大変でもありませんよ」とおっしゃられました。そこで私は「日本では保育所不足の社会問題もあって、女性スタッフも会社も、復帰して欲しくても復帰できないという実情もよく問題になりますが、ベトナムでは保育所不足などはありませんか?」と聞いてみました。すると所長さんは「ベトナムは大家族主義で、兄弟、両親、祖父母の誰かが、子供の面倒をみてくれます。仮にそれが無理なら、親類や近所の人、他の誰かが面倒見てくれるため、そういうことは問題になりません」「ベトナム社会では子供は国の宝と考えられ、皆で育てていくものという思想もあります。よその子だろうと宝の育成に関わっていることはその人自体も幸せなんですよ」と答えられたのです。今の日本とは、常識が異なる…と感じます。日本なら「こんなことを両親以外に頼むなんて、気が引けるし、できない」となるところですが、ここではそんな発想はないようです。これも「他人に迷惑をかけても当然、困った時は遠慮なく手助けしてもらおう」という文化から生まれた常識があるから。日本からすると非常識な無断路駐、女性の就労を叫びながら、復帰できない矛盾した現状…。常識が変われば、問題が問題でなくなることもある。「人様に迷惑をかけないように」と幼少の頃から教わって生きてきた1人の日本人として、私はベトナムの文化をとて新鮮に感じただけでなく、**世の中に絶対、正解はないのかも**…と痛感した次第です。おそらく、ベトナム文化から生まれる社会の問題やデメリットもあるはずだから…。